



お城の近代史

いしお かずひと
石尾 和仁 (友の会会員)

鳴門市撫養町林崎にある妙見山の山頂に、昭和40(1965)年3月、徳島県立鳥居記念博物館が建設されました。徳島県出身で、明治・大正・昭和の激動期に活躍した世界的な人類学者・考古学者である鳥居龍蔵を顕彰する目的をもった施設でしたが、平成22(2010)年3月に閉館、同年の11月3日に徳島市の文化の森総合公園に移転、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館として新たなスタートをしました。鳴門市にあった旧館は、天守閣の形状から市民に「岡崎城」と呼ばれたり、地元の小学校の校歌には「鳥居城」と歌われたりしています(写真)。



それでは、どうして天守閣の形状が採用されたのでしょうか。もちろん、この場所に江戸時代はじめ、「阿波九城」の1つ撫養城が置かれたことが、理由に挙げられるでしょう。しかし、その当時は決して天守閣をもつような建物ではありませんでした。すなわち、天守閣の無かったところに模擬天守を造ったのです。このような例は鳥居記念博物館だけに限ったことではありません。

例えば、静岡県にある熱海城(昭和34年10月新築)の場合を見てみましょう。昭和25年4月13日に大火で中心部の4分の1が焼け野原となった熱海市に対して、国は同年8月1日に「熱海国際観光温泉文化都市建設法」を制定しました。そして、「国際観光温泉文化都市『熱海』建設構想図」が発表されました。しかし、これには「熱海城」は描かれていませんでした。ところが、急遽天守閣が築かれる



旧鳥居記念博物館(鳴門市撫養町)

ことになりました。その背景には、観光資源の創出と観光客の誘致という目的があったのです。「熱海城」は、昭和34年秋、開城披露がなされることになったのですが、当時の地元新聞(『東海民報』昭和34年10月11日付)には次のようにあります。

すなわち、「愈々十六・十七日に開城披露、錦浦山上の“熱海城”？ 地下三階地上九階の近代建築？」の見出しで、「熱海城は地下三階、地上九階の大建築で、地下各階はプール、大小浴場、名店街、宇宙館、遊園地、温室、神前結婚式場など、地上各階には美術館、大食堂、喫茶店、名店街、大広間、和室、展望台などの近代施設があり、熱海名所の一つとして登場」したのです。

また、京都府の伏見桃山城(昭和39年新築)も、伏見桃山キャッスルランドの開園にあわせて建設されたもので、豊臣秀吉が築城した場所とは異なっています。本来の場所は明治天皇陵となっていたのです。残念ながら、遊園地も平成15年に経営難から閉鎖されたままになっています。その他、天守閣がなかったにも関わらず模擬天守のある例として千葉城(千葉県)、郡上八幡城(岐阜県)、唐津城(佐賀県)、平戸城(長崎県)、中津城(大分県)などがあります。

実は、鳥居記念博物館の建設が計画された昭和30年代は、昭和29年に富山産業博覧会を記念して再建された富山城を皮切りに、日本のいたるところで築城ブームが興っていました。例えば、昭和31年に再建された岐阜城の場合は、明治43年に木造の模擬天守が地元経済界の資金提供で建設され、「地域のシンボル」として位置づけられていたものが、1910年代に焼失したことを受けて、観光資源としてロープウェイの設置とあわせて再建されたものです。その他については表の通りです。

表. 昭和30年代前半に再建された天守閣

再建年	城名	所在地
昭和31年	岐阜城	岐阜県
昭和33年	浜松城	静岡県
	津城	三重県
	和歌山城	和歌山県
昭和34年	広島城	広島県
	岡崎城	愛知県
	大垣城	岐阜県
	小倉城	福岡県
昭和35年	名古屋城	愛知県
	小田原城	神奈川県
	熊本城	熊本県

ところで、日本人はどうしてこれほどまでに天守閣が好きなのでしょう。高所からの眺望が楽しみなのでしょう。それだけなら東京タワーや東京スカイツリーのような構造物で十分です。やはり、日本人の心には天守閣を見て、何か安堵する（あんど）ような愛郷心を感じていたのでしょう。鳥居記念博物館もこのような意識や築城ブームに乗ったものと言えるでしょう。



しかし、明治維新以降の国民は、常に天守閣に対する憧憬（どうけい）を抱いてきたわけではなかったのです。明治維新によって不要になった天守閣の解体が進められた事例がいくつかありますが、宮城県（いわき）の磐城白石城（いわきしろいし）の場合は、商人の菅野円蔵（いづの こんぞう）の懐古録である『菅野

円蔵翁郷土史物語』に「白石城をこわす時は、みものだった。白石の人たちが大勢、弁当（にぎり飯）持参で見物に出かけた。私も小さかったが見に行った」、「血の出るような金を絞り取られた」、「殿様にいいようにされた」などと記されています。その他、商人によって破却されたものに小田原城（神奈川県）・高遠城（長野県）・津城（三重県）・萩城（山口県）・大洲城（愛媛県）などがあり、「封建権力」の象徴としての天守閣に対する根強い反感があったものと考えられます。

その一方で、熱心に城郭保存運動が繰り広げられた事例もあります。例えば、松本城（長野県）は、名望家であった市川量造（りやうぞう）が、競売で落札した笹部六左衛門（ささべ ろくざえもん）に取り壊し（ゆうよ）を交渉、松本博覧会会社を設立し、その収益で天守閣を買収し、保存に成功したのです。

松江城（島根県）は、旧藩士高城権八（たかぎ こんぱち）が豪農勝部本右衛門（もと えもん）と協力して落札者から買収し、その後県令籠手田安定（こて だ やすさだ）が「天守閣旧観維持会」を組織して修復を行いました。籠手田は滋賀県令時代に彦根城の保存にも尽力しています。

大垣城（岐阜県）では、1873年5月の建物地所払い下げ時に、旧藩士・住民の保存運動がおこり（後に戦災で焼失）、明石城でも旧藩士らの保存運動によって櫓（やぐら）の一部が残りました。このように保存運動は旧藩士を中心に展開されました。

以上のように破却と保存、両面の運動を見せながら近世城郭の近代史が展開していったのです。そして、大阪城や姫路城・広島城・名古屋城など、おもな城郭は陸軍の管理（ちんたい）下で鎮台（ちんたい）が置かれることになりました。



さて、築城ブームは昭和30年代だけでは終わりませんでした。平成になっても、清洲城（きよす）（平成元年新築、愛知県）が、清洲町の町制百周年を記念して築城されています。これは天守閣を模した「ふれあい郷土館」であり、公民館としての役割を果たしています。また、墨俣城（すのまた）（平成3年新築、岐阜県）は、元来砦（とりで）があった場所に天守閣が新築されたものであり、歴史資料館と名乗ってはいるものの、実態はホー

ルや町民ギャラリーなどを備えた公民館的施設です。

さらに、掛川城（平成4年再建、静岡県）は、掛川市が全国に先駆けて「生涯学習都市」を宣言し、これに賛同した人から5億円の寄付を受けたことを契機に天守閣建設が進められたものです。



高度経済成長期に復元されたり、模擬天守の建設が進められたりした事象をどのように捉えることができるのでしょうか。背景にはやはり郷土の象徴、アイデンティティの問題があり、さらには観光開発も含めた経済問題として見ていくことができるでしょう。

すなわち、「昭和の築城ブーム」は焼け野原となった戦後の喪失感を癒すことと、高度経済成長を背景とした観光資源化が目的でした。

一方、「平成の築城ブーム」の背景として、高度経済成長期を経て豊かになった都市住民の憩いのための空間の象徴として天守閣が求められたことがあったのだといえるでしょう。

なお、徳島県内では、岡崎城（旧鳥居記念博物館）のほか、昭和53年に建てられた日和佐勤労者野外活動施設である日和佐城、昭和56年に建てられた観光施設である川島城があります。

友の会行事報告

チリモンをさがそう

- 日 時 6月24日（日）13:00～16:00
 ○場 所 博物館実習室
 ○担 当 鳥居 喬（友の会役員）、佐藤陽一・中尾賢一・辻野泰之・山田量崇（博物館学芸員）、松岡 功（博物館主任）
 ○参加者 27名

2年前にも同名の行事「チリモンを探そう！」を行いました。とても好評だったため第2回目の開催です。スーパーマーケットなどで購入したチリメ



行事の様子

ンジャコの中身は、おもにカタクチイワシの仔魚しぎよからなりますが、漁獲された直後だと、カタクチイワシの幼魚以外におもしろい形をした微小な生物（プランクトン）が含まれます。これらをチリメンに含まれるモンスターということで、チリモン（チリメンモンスター）と呼んでいます。同様の行事は、最初、大阪のきしわだ自然資料館友の会の方がチリメンジャコに含まれる色々な生き物に着想を得てイベントにしました。現在では、チリモンに関連するたくさんの書籍も出版されています。

今年は、台風などの影響によって、運悪く漁獲されたばかりのチリメンを手に入れることができませんでしたので、事前に冷凍保存していたチリメンを利用しました。最初に佐藤学芸員からチリモンとは何かの簡単な説明がなされました。その後、参加者がトレーの上にチリメンを広げ、ピンセットを使って含まれるチリモンを探していきました。アジの仲間の稚魚やイカの幼生は、比較的サイズも大きく、



顕微鏡を使ってチリモンを観察中

目立つためすぐに判断できますが、目を凝らして観察するといろいろな形をしたチリモンが含まれていました。参加者は、虫めがねや双眼実体顕微鏡を使って、チリモンを丹念に探していました。カニの幼生である“ゾエア”や“メガロパ”は、大人のカニとは全く違った形をしており、参加者は驚いていました。等脚類と呼ばれる“ワラジムシの仲間”や毛顎類と呼ばれる“ヤムシ”など、普段聞きなれない奇妙な生物も含まれていました。

参加者は、自分で絵を描いた台紙に、見つけたチリモンをボンドで貼り付け、オリジナルのチリモンカードを作りました。最後に、参加者が見つけたチリモンをプロジェクターでスクリーンに投影して、それぞれのチリモンについて学芸員が説明を行いました。また、佐藤学芸員が小松島市和田島にあるチリモン製造現場のスライドショーを行いました。

(辻野泰之：地学担当学芸員)



チリモンをスクリーンに映して解説

Voic^e 参加者の声

●あらたけたつろう
●荒武達朗

楽しい企画でした。“ただのゴミ”と思っていたのが、実はモンスターだったというのは驚きでした。

最初にプレゼンテーションで、「こんなのが混ざっています」と説明してもらえると“チリモンさがし”が効率的にできたかもしれません。

●くにみこうたろう
●國見幸太郎

家族4人で参加させていただきました。小学校1年の娘が退屈しないか心配していましたが、楽し

かったようです。ずっとチリモンをさがしていました。小学校5年の息子は釣り好きで、魚は以前より好きなのですが、普段釣っているアジやサバのチリモンに興味津々だったようです。また機会があれば参加したいです。ありがとうございました。

●おがたけんじ
●小方謙二

小2の子どもたちは顕微鏡で見た大きなチリモンを楽しみ、ゾエア→メガロパと成長することに家族で「へー！」と感動し、身近なチリモンに愛着がわいた1日となりました。小さな疑問にもていねいに答えてくださり、ありがとうございました。お世話になりました。また家族で楽しめる行事に参加させてください。

●しのはらゆうじ
●篠原雄二

友の会行事に初めて家族で参加させていただきました。ふだん食べているチリメンがどのように加工されているのか、また中にまざっているいろいろな種類の幼生等を実際に観察することで、たいへん深く知ることができました。子どももその後チリメンが食卓に出ると、チリモンを見つけ出し楽しそうに観察したり、本で調べたりしています。「また友の会行事に参加したい！！」と言っていました。お世話になった学芸員の方々、ありがとうございました。

●なかむら たいち
●中村太一

今回の行事で、今まで知らなかったチリモンがたくさん知れてよかったです。タツノオトシゴやフナムシが入っていることもあるとは思っていませんでした。またチリモンをさがしてみようと思います。



チリモンカードを作りました

これからもいろいろな行事に参加させていただきま
す。楽しみにしています。

● (無記名)

初めての行事参加でしたが、とくにとまどいもな
く参加でき、充実した内容だったと思いました。学
芸員さんのサポート (人数やタイミング) も思っ
ていた以上にありがたいものでした。1点だけ願
いがあります。子ども (小学校低学年) 対象のイベ
ントでないことは理解していますが、もう少し配慮
をお願いしたいです。①説明に難しい漢字が多
かったと思います (要フリガナ)。②顕微鏡の位置
が高く子どもが自分ひとりでのぞけません
でした (台があれば・・・)。今後も魅力ある
行事を期待しています。

友の会行事報告

牛乳パックではがき作り

- 日 時 7月22日 (日) 13:00 ~ 16:00
- 場 所 博物館実習室
- 担 当 おおすぎようこ まつ かきょうこ 大杉洋子・松家京子 (友の会役員)、
お がわ まこと まつおか いさお 小川 誠 (博物館学芸員)、松岡 功
(博物館主任)
- 参加者 15名

牛乳パックは、とてもきれいなパルプ (紙の原料)
からできています。その紙パックを水につけて柔
かくし、ミキサーにかけてもう一度パルプに戻
してからすき直して、オリジナルのはがきを作
りました。白いはがきだけでなく、色をつけた
パルプで模様をつけたり、うすいピンク色
のはがきを作ったり、世界でたった1枚のは
がきができあがりました。

(松岡 功：友の会事務局)

Voic^e 参加者の声

● おがたここね 小方心優

ふだんすてている牛乳パックから紙が
できるとはしりませんでした。ピンク色
を入れるりょうで紙の色がかわって
おもしろかったです。すこしっぱい

したけど、リボンの紙をつくるのがいちばん
たのしかったです。あみをはずすのがむ
ずかしかったです。草や木を使って紙
をつくるのもたのしみです。

● たけいちみ えこ 武市三枝子

参加させていただきありがとうございました。
学芸員の先生にわかりやすく説明して
いただき、初めてではがき作りがで
きました。また、もう一度このよう
な機会をつくっていただきたいと思
います。

● やまもと 山本あかり

私が一番大変だと感じたのは、牛乳
パックをとかしたパルプを型に入れ
るときでした。厚さがバラバラに
なって、穴があきそうになったか
らです。一番うれしかったことは、
はがきのように上手く作れたこと
です。牛乳パックから、また別の
紙ができるということにびっくり
しました。最初は、「このドロドロ
したものが紙になるの?」と思っ
たけど、本当に紙になったのでお
もしろかったです。

● いせ 伊勢ひとみ

紙すきの体験ではお世話になりました。
数日間水につけた牛乳パックのビ
ニールを手ではがし、ミキサーに
かけ細くなったパルプを簡易の紙
すき器でこします。桜やハート等
さまざまな型抜きした折り紙や、
用意して下さっていた押し花を
すき込んだり、わくわくしながら
皆さん夢中で取り組んでいま
した。私のできはもうひとつで
したが、それでも心のこもった
はがきができました。早速暑中
はがきを出そうかなと思っています。
ありがとうございました。



紙パックをミキサーにかけます



型に入れて紙すきへ

●^{しのはらゆうじ}篠原雄二

2回目の行事参加になります。参加する前から子どもが楽しみにしていました。(当日もはがき作りの作業を熱心にしていました。)家では今回ののはがき作りの作業を思い出しながら、他の素材ではがき作りをし、夏休みの自由研究にしました。親子共々良い体験ができ、夏休みの思い出にもなりました。小川先生、友の会の方々、大変お世話になり、ありがとうございました。(今はミントの葉ではがき作りができるかチャレンジ中です。)

友の会行事報告

川田川の水生昆虫観察

- 日時 8月11日(土) 10:30～12:00
- 場所 ^{かわたがわ}川田川(吉野川市美郷)
- 担当 ^{とくやま ゆたか}徳山 豊(友の会役員)・^{やまだ かずたか}山田量崇(博物館学芸員)・^{まつおか いさお}松岡 功(博物館主任)
- 参加者 10名

川にはさまざまな水生昆虫がすんでいます。水生昆虫は水質や河川環境のちがいによって種類が様変わりするため、水のよごれを指標する昆虫として知られています。今回は吉野川市美郷の川田川で水生昆虫の観察を行いました。徳山さんによる解説の後、さっそく川に入って採集をしました。多くの場合、水生昆虫は石の裏や砂利の中で暮らしています。種



ザルを使って水生昆虫を採集します

数、個体数ともに多かったのが、エルモンヒラタカゲロウやシロタニガワカゲロウなどのカゲロウ類、オオヤマカワゲラなどのカワゲラ類でした。また、石をめくると細かい石をつづりあわせたヒゲナガカワトビケラやニンギョウトビケラ類の巣が見られました。その他にも、サナエトンボ類のヤゴや小さなゲンゴロウ類も見つかりました。

ひととおり採集した後に、徳山さんから採れた虫について詳しく説明していただきました。また、かつて大規模な工事が行われ、環境がすっかり変わってしまったことなどにも話が及びました。短時間ではありましたが、多くの水生昆虫を観察でき、川田川の自然豊かな環境が理解できたように思います。

(山田量崇：動物担当学芸員)

Voic^e 参加者の声

●^{しのはらゆうじ}篠原雄二・^{しげこ}繁子・^{みずき}瑞稀

今回は子どもが大好きな昆虫の観察で、前日から大はりきりでした。参加当日も大はりきりで、石の裏側や小石の間にいる虫たちをさがして観察してい



川田川の水生昆虫

ました。初めて目にする昆虫ばかりだったので、とてもうれしそうにしていました。帰ってきてからは、先生方に説明していただいた虫を図鑑で調べ、おじいちゃんやおばあちゃんに教えていました。今回も親子共々とても勉強になりました。山田先生、友の会の方々、大変お世話になり、ありがとうございました。

友の会行事報告

キャンプで自然体験

- 日時 8月18日(土)～19日(日)
- 場所 いきものふれあいの里キャンプ場
(佐那河内村)
- 担当 澤祥二郎・伊勢ひとみ・松家京子(友の会役員)、佐藤陽一・茨木靖・山田量崇(博物館学芸員)、松岡功(博物館主任)
- 参加者 21名

いきものふれあいの里キャンプ場に一泊しての自然体験です。まず初日は、オリエンテーションの後キャンプ場横の池周辺で動植物を観察しました。池では、クロイトトンボ、モノサシトンボ、アカハライモリなどの動物や、ナガバモミジイチゴ、アキノタムラソウ、サジガクビソウなどの植物を観察しました。観察会終了後は、キャンプ場に戻って楽しいバーベキューです。はじめは、なかなか火がつかず、どうなることかと思いましたが、ヒノキの葉などをくべると、やがて炭も赤く燃えだしました。夕食後はライトトラップを使って昆虫を観察しました。ミヤマクワガタのメスやノコギリカミキリ、オオクモヘリカメムシ、エサキモンキツノカメムシ、ヒメカマキリモドキなどの昆虫を観察できました。

19日は旭ヶ丸登山をしました。この地域は県の希少野生生物保護区に指定されている、とても自然の豊かな場所です。ここでは、幸運にもオオナンバンギセル、ワレモコウ、カワラナデシコなどの希少な花々やオオヒラタシデムシ、ニワハンミョウなどの昆虫を観察することができました。最後に突然の豪雨で駐車場横の売店に逃げ込むことになりましたが、終始楽しいキャンプとなりました。

(茨木 靖：植物担当学芸員)



旭ヶ丸の山頂で記念撮影



キャンプ場の近くで野外観察

Voic^e 参加者の声

● やまもとたくみ 山本拓実

今まで見たことのない虫を見て、まるで小さいころにもどったようでした。ぼくは、ライトトラップにかかった虫を観察するのが一番楽しかったです。カマキリモドキがおもしろかったです。カマを使ってカマキリのようにえさを食べていました。ふだんは見ることのできない虫などをたくさん見ることができました。貴重な体験がたくさんできて、とても楽しかったです。

● なかむらたいち 中村太一

今回のキャンプは山だったので涼しくてよかったです。星もきれいでした。いろいろな植物や昆虫について詳しく知ることができました。また来年のキャンプにも参加したいです。友達もいたのでうれ



みんなでバーベキュー

しかったです。ありがとうございました。また、よろしくをお願いします。

● しのはらみずき 篠原瑞稀

キャンプに参加して、図鑑でしか見たことがない昆虫や植物の観察をすることができて、とても楽しかったし勉強にもなりました。山田先生がすすめてくれた図鑑を買ってもらったので、それを読んで勉強して、またキャンプに行った時など昆虫の観察するのに役立てたいです。お世話になった先生や友の会の方々ありがとうございました。(つかまえた虫も元気にしています。)



夜はライトトラップで昆虫観察



旭ヶ丸でハイキング

アワーミュージアム 第50号

2012年10月29日発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp